

平成 19 年 11 月 25 日  
(社)日本技術士会 原子力・放射線部会

## 原子力・放射線部会員の活動に関するアンケート調査結果

当部会では、一般社会の原子力への理解促進などに対する部会員の活動に関してのアンケートを行いました。このアンケートの結果について整理・分析をいたしましたのでご報告します。アンケートにご協力くださいました皆様、ありがとうございました。本結果を今後の原子力・放射線部会の活動に活用する予定です。

### 記

- 1.アンケート名称:原子力・放射線部会員の活動に関するアンケート調査
- 2.実施期間 :平成 19 年 9 月 1 日～10 月 5 日
- 3.対象者 :日本技術士会 原子力・放射線部会部会員
- 4.アンケート方法と回収率:上記対象者にEメールを送付し、メールにて回答を頂く形式で実施  
アンケート発信数 :133 人 回答者数:26 人 回答率:19.5%

### 5.アンケート結果の概要

項目別のまとめは以下に示す。特に技術者倫理の学習や教育の重要性について、アンケート結果でも確認できた。部会では既に、活動を始めており、改めて部会の方向性と部会員の志向する方向が合致していることが確認された。現在の活動を今後も継続していく。懸念するべき点は、今回の回答率が 20%を切っており、前回のインセンティブ調査(回答率 35%)と比較すると低調だった。宣伝不足もあろうが、もっと関心を頂きたいと思う。

#### (1) 一般社会に向けて原子力の理解促進のために何か活動したことの有無について

84%が何らかの理解促進のための活動を考えたことがあり、うち 86%が実行に移している。したがって 70%以上が何らかの活動をしている。もっとも多い活動は、家族や仲間を対象に原子力関係施設やPR館へ一緒に行き理解啓蒙をするものである。その他、個人で可能な活動が中心である。

#### (2) 原子力関係企業や組織の活動の透明性・公共性の確保に向けての活動に関して

72%が何らかの行動を考えている。最多数は、「技術者倫理の学習や教育活動」であり、60%に上る。直接、組織のデータの開示を求める活動も 20%になる。これらのアイデアを発想しただけでなく 2/3 にあたる 67%の人が実行している。また、(1)の理解促進活動と異なるのは、60%の人が個人では無く複数で実行している点である。逆に実行を断念した理由には、「活動の継続性に難がある。」や「組織自体が技術者倫理の学習や教育活動を始めた。」ことを上げている。

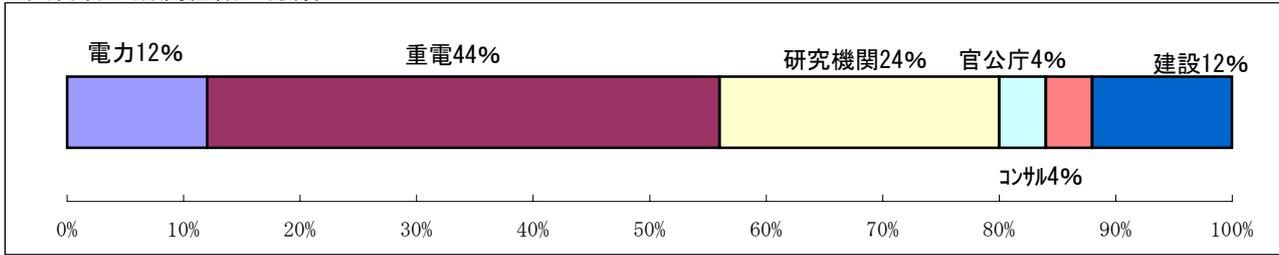
#### (3)「原子力・放射線技術士をもっと増やす方策で効果的なものは」の問いに関して

半数以上の方が「技術士に期待される役割を提示し、将来可能となる活動を示す。」ことを支持している。また 1/3 の方が、企業や組織が受験を積極的に奨励することを上げている。企業や組織の後押しは重要と思われるが、それ以上に、「個人の見識や知識レベルを認定するだけでは十分でなく、具体的な役割が認識されないと増加は難しい。」と考える人が多いということであろう。

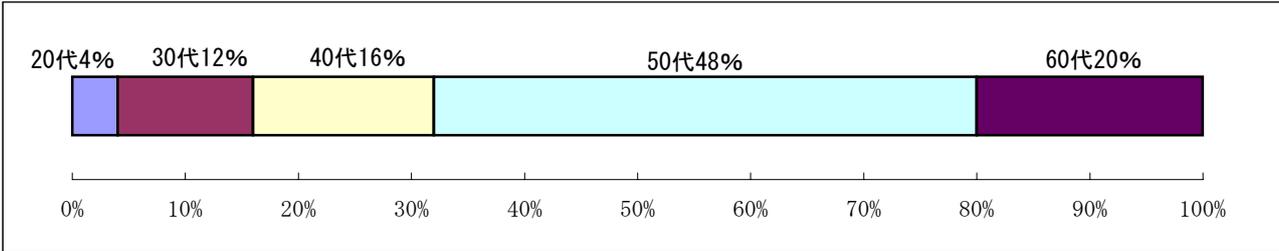
以上

原子力・放射線部会員の活動に関するアンケート調査結果

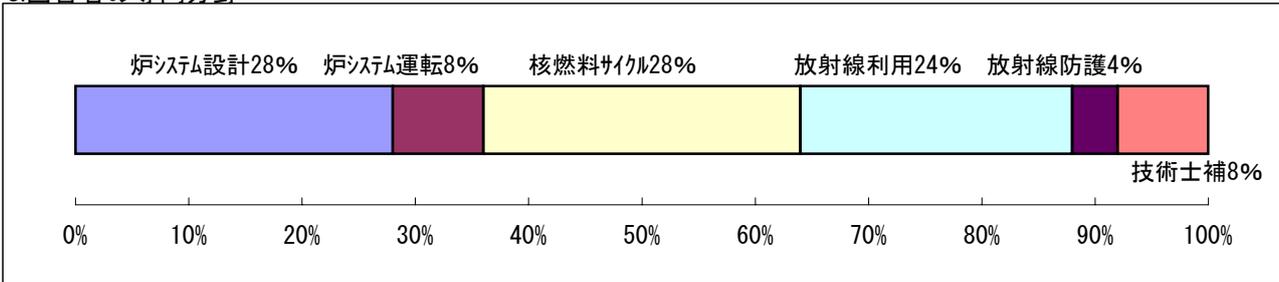
1.回答者の所属組織の分類



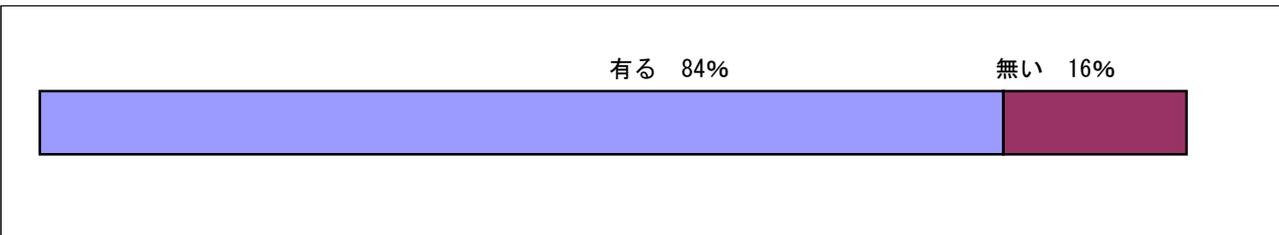
2.回答者の年齢



3.回答者の専門分野

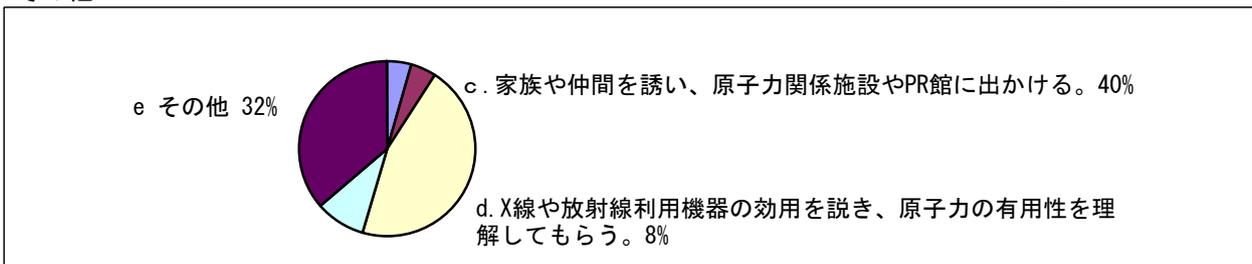


4.社会で原子力が不人気なのは、原子力に対する理解不足が原子力アレルギーを引き起こしている。」という考えがありますが、一般社会に対して原子力の理解を促進してもらうよう何か活動したいと考えたことがありますか？



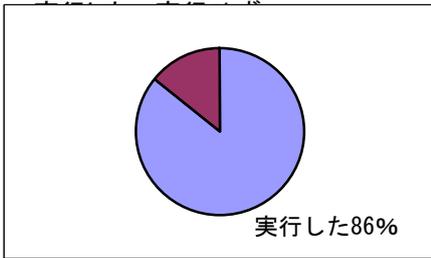
5.どのような活動をしようと思いましたか？(複数回答1名)

- a.地域の公民館などで「わかり易い原子力ABC」などの講師を買って出る。 4%
- b.新聞や雑誌の投稿欄に、原子力の理解を促進する目的で投書をする。 4%
- c.家族や仲間を誘い、原子力関係施設やPR館に出かける。 40%
- d.X線や放射線利用機器の効用を説き、原子力の有用性を理解してもらう。 8%
- e.その他 32%

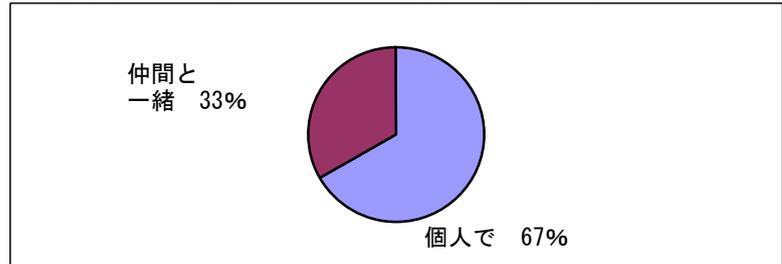


- ・大学の同窓会にて原子力関係の講演をした。
- ・身近な人、家族や地域の人に機会を見つけては原子力全般の状況や話題に関する説明を行い理解を深めて貰う。
- ・公的機関のモニターに応募した。
- ・原子力発電の理解は不十分で、理解促進にはエネルギーに理解を深めて貰う。
- ・原子力学会の社会・環境部会の活動に参加
- ・市民団体会報に原子力関連の事件の解説を投稿する。理科支援員等配置事業に応募
- ・原子力発電所内での見学者の案内をしている。
- ・社内に地域向けに原子力を理解して貰う活動組織がある。過去に地域での意見交換会に参加。

6.その活動を実行しましたか

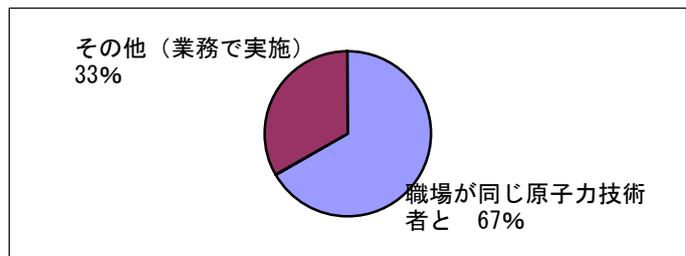


7.実行したは個人でしましたか、仲間と一緒にでしょうか？



8.どのような仲間と一緒に実行されましたか？

- 職場が同じ原子力関係技術者
- 職場は同じだが原子力関係技術者ではない
- 学生時代の知合い
- 地域やサークルの知合い
- その他



9.実行されなかった方はどのような理由で断念されたのですか。

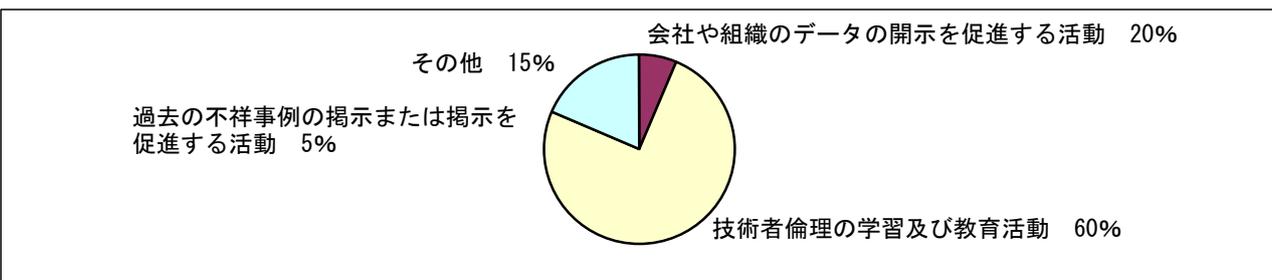
(回答)

- ・想定した活動をする機会が少ないと思い断念した。
- ・知見や理解がまだまだで技術士資格を取得してから活動するべきと思った。(技術士補)
- ・投書を考えたが、内容について所属機関と関係のあるものは要許可である。許可が難しいと思ったから。

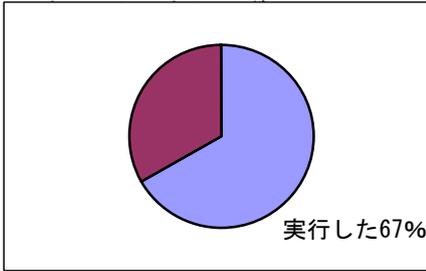
10.原子力関係の企業や組織で不祥事が発生していますが、企業や組織の活動の透明性や公共性の確保に向けて、原子力・放射線技術者として何かしようと思われたことがありますか？



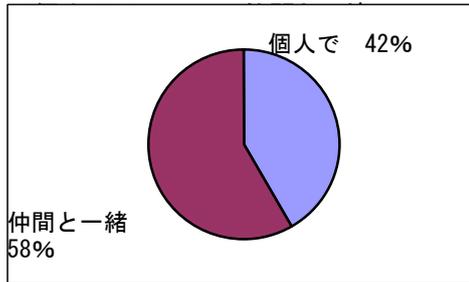
11.あると答えられた方は、どのようなことでしょうか。(複数回答2名)



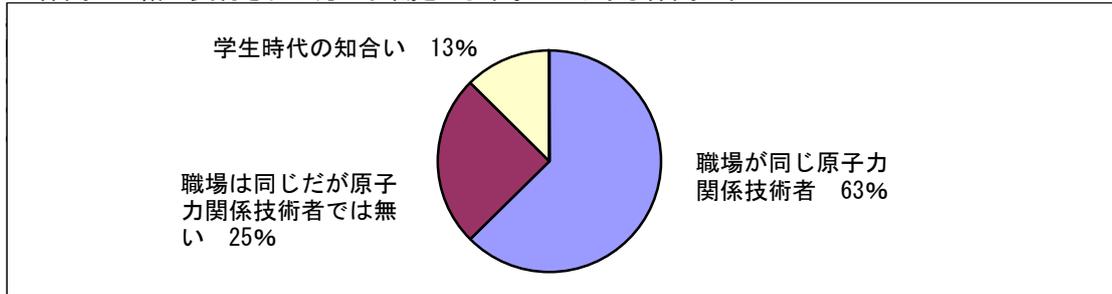
12.それを、実際に実行されましたか？



13.実行された方は、個人でされましたか？  
仲間と実施しましたか？



14.仲間と一緒に実行された方にお聞きます。どのような仲間ですか？

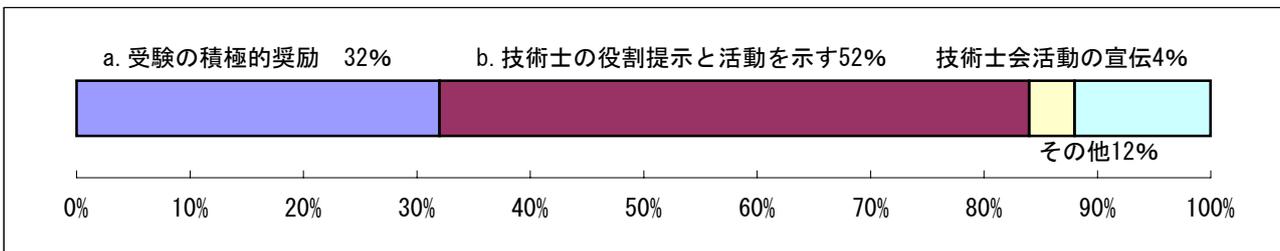


15.実行しなかった方は、どのような理由で断念されたのですか。

- |   |   |
|---|---|
| a. 担当業務とは異なるため、違う部門がやるかと思った。            | 1 |
| b. 継続して実施しないと効果が薄いが、継続は難しいので断念した。       | 1 |
| c. 自社や所属する組織の問題を対象に行動を起こすのは困難。          | 0 |
| d. 行動を起こしたくても、他の企業や組織の問題であり、関与することは難しい。 | 1 |
| e. その他                                  | 2 |

16.原子力放射線技術者は日本全体で約4万人と言われています。また、技術分野別に各技術部門での技術士の有資格者は全技術者の約1%程度とも言われています。この割合からすると原子力・放射線部門の技術士は、400人程度となりますが、様々な活動を本格的に行うためには、もっと多くの原子力放射線部門の技術士が必要となります。もっと多くの人に受験してもらい、技術士になってもらうにはどうしたら一番効果的だと思いますか？1個選んで回答下さい。

- a. 会社や組織が、所属技術者の原子力・放射線技術士の受験をもっと積極的に奨励する。
- b. 原子力放射線分野の技術士に期待される役割を提示し、将来可能となる活動を示す。
- c. 技術士会の活動や入会によるメリットを宣伝し、受験の動機を与える。



d. その他(下記に具体的に記述してください)

原子力関連技術は社会性が強くなにか事象が発生すると風評被害もすくなくはない。そのような技術につて国は国民に何を持って安心を与えることの補償としているのか。もし手段の一つとして技術者倫理を期待するのであれば、技術者倫理を義務・責務として負わされている技術士の監視の無い業務を許さないように取り締まることも有効ではないか。大切なのは、原子力の安心・安全を高めることである。安心・安全を高める活動の結果、技術士が増えているようになるのではないだろうか。

企業が原子力放射線分野の技術士にインセンティブをつける価値があるかどうか。最低限、自己啓発としてのインセンティブをつける(a.としてこれは結構やられている?)。それ以上を求めるとすれば、b.のいう「原子力放射線分野の技術士に期待される役割」にインセンティブがつけられるような仕組みが必要。

会社内で技術士受験を奨励しているが、技術士の資格を取得してのメリットが見えない。報奨金や昇給・昇進などに反映させれば受験者数が増えると思う。